鴻巣市文化財マップ

1 埼玉県生出塚埴輪窯跡出土品
＜国指定重要文化財　考古資料＞
生出塚遺跡は、東・天神地区に所在する東国最大級の埴輪製作跡で、円筒埴輪及び各種の形象埴輪が多量に出土している。なかでも全身像の武人埴輪１体と貴人埴輪３体は、高さ１３０ｃｍ前後で造形的にも優品である。特に埴輪窯跡から出土した例は少なく、当時の埴輪生産の様子を知る上で貴重な資料である。
（鴻巣市蔵）

2 鴻巣の赤物製作技術
＜国指定重要無形民俗文化財＞
鴻巣の赤物製作技術は、桐の大鋸屑に正麸糊を加えて練った桐塑製の生地を型に入れて成型し、赤く彩色した玩具を製作する技術である。赤色は魔除けの色であり、かつて子どもの病として恐れられた疱瘡（天然痘）除けとして、赤物には子どもを守る効果が期待されていた。現在、主要な赤物は「だるま」や「獅子頭」であるが、かつては「熊金」など金太郎を題材としたものなど数百種類が作られ、中山道を通じて各地に流通した。
（鴻巣の赤物保存会）

1 伊奈忠次墓
＜県指定　史跡＞
伊奈備前守忠次（１５５０～１６１０）は三河の出身で、徳川家康に仕えて絶大な信頼を得、関東郡代となって活躍した。特に測量、土木技術に優れ、利根川や荒川の治水事業に業績をあげた。また、その後を継いで手腕を発揮したのが次男伊奈半十郎忠治（１５９２～１６５３）で、本格的な「利根川の東遷」、「荒川の西遷」を行った人物とされる。勝願寺には、忠次・忠治とその夫人の墓４基がある。
（本町　勝願寺）

2 一里塚
＜県指定　史跡＞
江戸時代、参勤交代を契機として街道が整備され、主な街道には距離の目安として一里塚が築かれた。一里塚は、江戸日本橋からはじめて一里（約４ｋｍ）ごとに、およそ１０ｍ四方の塚を築き、その上に榎や松などの樹木を植えたものである。市内小松の一里塚は、元々東西一対あったものが、明治時代になって鉄道敷設の際に東の塚が取り壊され、現存する１基のみになった。
（野原家・高杉家）

3 馬室埴輪窯跡
＜県指定　史跡＞
昭和７年（１９３２）に後藤守一博士らによって発掘調査され、わが国の埴輪窯跡研究の先駆けとなった。発掘時に４基の窯跡が発見され、そのうちの２基が調査の対象となった。これらの窯跡はその後埋め戻され保存されている。近年の確認調査によれば、指定地周辺には１０基以上の窯跡が存在したことが明らかになっている。
（原馬室）

4 伝源経基館跡
＜県指定　史跡＞
六孫王源経基は清和天皇の第６皇子貞純親王の子で、武蔵介となって関東へ下り、その居館を鴻巣の地に構えたと伝えられている。現在、その館が大間にある城山と推定されている。現況は大部分がひのき林となっているが、土塁、空堀、物見台跡などが残っており、方形館の様子を知ることができる。主要部分の規模は東西９５ｍ、南北８５ｍである。
（大間）

5 武蔵志及び賑民録版木
＜県指定　書跡・典籍・古文書＞
福島東雄が自ら山野を歩き、多年に亘って見聞を集め記した『武蔵鑑』１４冊と孫の貞雄が補集した３冊を合わせて『武蔵志』と名付けた。また、貞雄は『賑民録』１冊を著し、飢饉に困窮していた農民のための心得として雑炊の方法、食い延ばしの計算などを説いた。その版木は桜の木に版刻して印刷したもので、表紙分を含めて７枚からなる。天保８年（１８３７）の製作。
（福島家蔵）

6 伝箕田館跡
＜県指定　旧跡＞
およそ１０００年前の平安時代後期、嵯峨源氏河原左大臣源融（とおる）の孫、仕（つこう）は武蔵守に任ぜられ、箕田郷を開墾して居館を作ったとされる。いわゆる箕田源氏の祖で、その子孫には宛（あつる）、渡辺綱などが輩出し、武勇伝が『今昔物語』や『御伽草子』に語られている。現在はその推定地付近に石碑が立つだけで、館跡の面影をとどめるものはない。
（箕田）

7 福島東雄墓
＜県指定　旧跡＞
福島東雄は名を幸作といい、享保１９年（１７３４）（一説には元文２年（１７３７））大間村福島家に生まれた。温厚で学識があり、産業の開発や農業の改良などに功績をあげ、地誌である『武蔵鑑』１４冊を著した。また、国学を好み、さらに伊勢派の俳人横田柳几の門にあって農夫園杉夕と号して俳諧にも通じた。享和３年（１８０３）没。
（本町　勝願寺）

8 横田柳几墓
＜県指定　旧跡＞
本名を横田三九郎盛英といい、享保元年（１７１６）鴻巣宿に生まれた。家業は歴代酒造業を営む。早くから俳諧を学び、のち佐久間柳居に師事し布袋庵柳几と号した。全国を遊歴して多くの句集を遺した。また、天明７年（１７８７）には芭蕉忌千句塚を勝願時に建立した。天明８年（１７８８）没。
（本町　勝願寺）

9 原馬室の獅子舞
＜県指定　無形民俗文化財＞
天正２年（１５７４）に２人の田楽師によって伝えられたとされる。ささらと呼ばれる獅子舞で悪疫退散、五穀豊穣を願って７月に祈祷ささら、８月に祭典ささらが行われている。祭典ささらには木刀、六尺棒、太刀を使用した３５の演目からなる棒術が行われる。
（原馬室獅子舞棒術保存会）

（10）
……来迎する姿が優雅に描かれた作品である。
（本町　勝願寺蔵）

11 木造安達藤九郎盛長坐像
＜県指定　彫刻＞
安達藤九郎盛長は源頼朝の信任を受け、鶴岡八幡宮の奉行人として鎌倉幕府の要職にあった。正治元年（１１９９）頼朝の死去の年に出家して蓮西と号した。正治２年（１２００）死去。盛長と伝える木像は入道蓮西の頃の姿とされ、寄木造り玉眼入りで南北朝時代の作と思われる。像高７７．４ｃｍ。
（糠田　放光寺蔵）

1 軍扇・鞍・刀掛・葵紋散蒔絵箱・葵紋蒔絵盆・葵紋漆平箱・葵紋漆箱
＜市指定　工芸品＞
慶長１６年（１６１１）１１月、徳川家康・秀忠は鴻巣地方に鷹狩りに巡遊した。その折、鴻巣宿の小池隼人之助は自宅を宿所として提供した。軍扇・鞍などの品々は、家康より隼人之助に与えられたものといわれている。
（根岸家蔵）

2 香具拾三組御免定　議定書　商人講中連盟帳及び焼印
＜市指定　古文書等＞
香具仲間とは露天商などの仲間のことで、町奉行の管轄下にあった。この御免定は大岡越前守忠相の名で発せられた定め書で、この定めに従って商人仲間は議定書（仲間規約）を作成し自主統制を図っている。焼印は木製の仲間鑑札に使用したものである。
（鴻神社蔵）

3 後陽成天皇御宸筆
＜市指定　書跡＞
勝願寺第二世不残上人は学徳にすぐれ、徳川家康も深くこれに帰依していた。このことが後陽成天皇の知るところとなり、天皇は綸旨を賜り紫衣を許されて御宸筆を下賜されたものである。
（いに紫衣の寺のゆかりを色にまであらはしきぬとねがう門跡）
（本町　勝願寺蔵）

4 朱印状１１通
＜市指定　古文書＞
寺領の所有を幕府が確認した書状で、将軍の朱印が押捺してあるので朱印状という。勝願寺には秀忠（２代）、家宣（６代）、家継（７代）、慶喜（１５代）を除く歴代将軍のもの１１通が残されている。
（本町　勝願寺蔵）

5 元徳三年宝篋印塔
＜市指定　考古資料＞
宝篋印塔は宝篋印陀羅尼経の説に基づき、経文を書写して納めた経塔から起こったものである。この塔には元徳３年（１３３１）の銘が刻まれている。
（安養寺　安龍寺）

6 庚申塔
＜市指定　民俗資料＞
西中曽根地区に残されている庚申塔は上部に屋根形の笠をいただき、棹部には青面金剛・日天・月天を、基部には三猿を表し、彫りは深く均整がとれた立派な作品である。
（西中曽根）

7 享保六年鷹番高札
＜市指定　歴史資料＞
高札は制札ともいい江戸時代には宿場、名主宅前などに掲示して幕府や各藩の法令、命令を民衆に知らせたものである。これは享保６年（１７２１）の鷹番高札で、この地が狩場となっていたことを物語るものである。
（鴻巣市教育委員会蔵）

8 雛人形師仲間訴訟文書
＜市指定　古文書＞
鴻巣の雛人形製作は一説には江戸時代の元禄期からと古く、天明期には販路も広域化してついには江戸の雛屋仲間と対立するに至った。この訴訟文書は、江戸の雛屋仲間と鴻巣を含む武州の雛人形師仲間との販売に関わる訴訟の古文書である。安政６年（１８５９）から慶応２年（１８６６）のものまで計６点ある。
（鴻巣市蔵）

9 箕田碑
＜市指定　歴史資料＞
この石碑は宝暦９年（１７５９）に建立されたもので、碑文は武蔵介源経基（つねもと）の徳、箕田源氏の源仕と渡辺綱の活躍及び箕田の地が武蔵武士の本源地であったことを漢文で記している。また、背面は約２０年後の安永７年（１７７８）に追刻された和文草体の碑文で、綱の辞世、芭蕉、鳥酔の句を記して武人の誉れを偲んでいる。高さ１６５ｃｍ、厚さ１０ｃｍの緑泥片岩製である。
（箕田　氷川八幡神社）

10 法要寺の庚申塔
＜市指定　民俗資料＞
庚申信仰は室町時代から広く行われるようになり、江戸時代には最盛期を迎え様々な様式の庚申塔が造立された。笠をいただくこの庚申塔は、寛政２年（１７９０）の造立で、庚申の由来を記した銘文が刻まれた貴重なものである。
（本町　法要寺）

11 吉見道みちしるべ
＜市指定　民俗資料＞
道しるべは、主要街道から脇往還などに入る分岐点に立てられた道路指示標である。この道しるべは中山道から松山秩父方面への分岐点に建てられたもので２基ある。寛政７年（１７９５）銘のものは高さが９９ｃｍで、享和２年（１８０２）銘のものは高さが８１．５ｃｍあり庚申塔を兼ねている。市内に残る貴重な道しるべである。
（人形１丁目）

12 道永の板碑２基
＜市指定　考古資料＞
板碑は鎌倉時代から室町時代にかけて造立された板状石製の供養塔で、石材が秩父青石であることから青石塔婆、板石塔婆などと呼ばれる。道永の板碑は文永７年（１２７０）と正応２年（１２８９）の造立で鎌倉時代の特徴をよく表している。
（箕田道永）

13 常勝寺密教法具
＜市指定　工芸品＞
滝馬室の常勝寺には密教修法の法具が数多く残されている。密教法具は奈良時代に渡来したといわれ、平安時代になると様式も多様化し広まっていった。常勝寺の法具は江戸時代のものと思われる。
（滝馬室　常勝寺蔵）

14 三ツ木神社の大欅
＜市指定　天然記念物＞
三ツ木神社は三ツ木の山王様として広く崇敬されている神社で、この大欅は山王様を象徴し山王様の神木として崇められてきたものである。樹高２２ｍ（枝の剪定以前）、幹回り６．９７ｍを有し、樹齢はおよそ４００～５００年と推定されている。
（三ツ木　三ツ木神社）

15 蘭溪堂（らんけいどう）碑
＜市指定　歴史資料＞
蘭溪堂如水、本名を北岡仙左衛門俊之といい、文化１３年（１８１６）加美に生まれた。書の道にすぐれ文政１３年（１８３０）１５歳にして早くも読み書きの道場を開き、以後４５年間わたり多数の子弟の指導にあたった。碑は明治１４年（１８８１）８月に門弟たちによって建てられたものである。
（加美　池元院）

16 人物埴輪頭部
＜市指定　考古資料＞
笠原字沼向の水田中より出土したもので、男子人物埴輪の頭部２点である。造形から生出塚埴輪窯跡で焼成されたもので、６世紀後半の製品である。……

26 弁財天塑像
＜市指定　民俗資料＞
黒沼家に伝えられる弁財天塑像は、表面に弁財天と１５人の童子、裏面に空海の手形が押され、小指に天長７年（８３０）と刻まれている。この塑像は江ノ島神社の社宝と同型であり、それを写したものと思われる。土版で縦２３．５ｃｍ、横２０．３ｃｍ。江ノ島の弁財天信仰を物語る資料である。
（黒沼家蔵）

27 康安二年六地蔵板碑
＜市指定　考古資料＞
板碑は鎌倉から室町時代に盛んに造立された板状石製の供養塔で卒塔婆の一種である。この板碑は南北朝時代の康安（北朝）２年（１３６２）の造立で、塔身部に６体の地蔵菩薩が陰刻された類例の少ないものである。
（登戸　勝願寺）

28 大雲文龍（だいうんぶんりゅう）書
＜市指定　書跡＞
大雲文龍は曹洞宗安龍寺の開山で、書道に秀で後陽成天皇、後水尾天皇の招きに応じ宮中に上り大字を書いて奉り、金蓮禅師の号を賜った。安龍寺に残されているのは「仁義礼智信」の五常の書である。
（安養寺　安龍寺蔵）

29 滝馬室的祭
＜市指定　無形民俗文化財＞
滝馬室氷川神社の的祭（マトイサイともいう）は、延暦年間（７８２～８０６）の征夷大将軍坂上田村麻呂の大蛇退治伝承に由来する。例年正月１２日に五穀豊穣や招福息災を祈念して行う射的行事で、的に矢が多く当たるとその年は豊作になるという。この神事は一時中断されていたが、貞享年間（１６８４～１６８７）に当地の島田常勝という人物によって復興され現在に至っている。
（滝馬室　氷川神社）

30 松村篁雨（まつむらこうう）墓
＜市指定　史跡＞
松村篁雨は享保１８年（１７３３）上谷村の旧家松村家に生まれ、鴻巣宿で医業を営んだ。詩文俳諧を好み、松羅堂（しょうらどう）または案山子庵（かかしあん）と号し、篁雨はその俳号である。文化６年（１８０９）没。
（上谷　観音堂）

31 三ツ木神社の算額
＜市指定　絵画＞
算額とは和算の問題と解答を木版に描き、神社仏閣に奉納したものであり、絵馬の一種である。和算は、中国の影響を受け、日本で独自の発達をとげた数学で、江戸時代に関孝和（１６４２～１７０８）らによって研究が深められた。
この算額は関流の和算家都築利治（旧騎西町）の門人１２名が明治２８年（１８９５）に奉納したものである。
（三ツ木　三ツ木神社蔵）

32 薬師堂の算額
＜市指定　絵画＞
中国の影響を受け、日本で独自の発達をとげた数学を和算といい、江戸時代に関孝和らによって研究が深められた。応用技術と結び付かないために科学として認められず、一種の知的競技として地方人士の間に流行した。
薬師堂の算額は、和算家都築利治の門人９名、世話人２名が明治２３年（１８９０）に奉納したものである。
（上谷　薬師堂蔵）

33 八幡神社の算額
＜市指定　絵画＞
算額は、数学の難問の解答を公開し、自分達の流派の力を世に問うたもので、当時の知的水準の高さを窺い知る貴重な資料である。
八幡神社の算額は、中村新蔵という人物が大正４年（１９１５）に奉納したものである。
（安養寺　八幡神社蔵）

34 神酒枠一組
＜市指定　民俗資料＞
「大山講」は神奈川県の霊山、大山阿夫利神社へ登拝することを目的に結成された信仰集団で、御師の活躍で江戸時代には「大山まいり」が各地で盛んに行わ……

38 絹本着色両界曼荼羅
＜市指定　絵画＞
曼荼羅とは、サンスクリット語の「マンダラ」の音訳で、「本質を得る」という意味で悟りの世界を表している。龍昌寺の胎蔵界（右）・金剛界（左）曼荼羅は、描面寸法１３９ｃｍ×１１５ｃｍで、描表装という手法から室町時代の作品と考えられ、作者は法橋栄賢広信である。全体として彩色、保存状態が良好で仏教絵画として貴重な資料である。
（箕田　龍昌寺蔵）

39 糠田出土渥美壺１点
＜市指定　考古資料＞
渥美窯産の広口壺で、製作年代は１２世紀末頃（平安時代末～鎌倉時代初頭）と考えられる。火葬用の蔵骨器として利用されたものである。出土地と製作年代が明らかであり、中世初期に在地有力者の存在を示す貴重な資料である。
（糠田　放光寺蔵）

40 加藤政之助書４幅
＜市指定　書跡＞
加藤政之助は安政元年（１８５４）滝馬室の旧家に生まれ、明治１３年（１８８０）埼玉県議会議員に当選し、以後衆議院議員、貴族院議員を歴任した。福沢諭吉と親交があり、実業界や教育界でも活躍し、地元鴻巣の武陽実業学校（現鴻巣高校の前身）の開設に尽力した。この２対４幅の遺墨は、昭和３年（１９２８）に書かれ、埼玉県議会議員矢島唯之助氏に贈られたものである。
（矢島家旧蔵　鴻巣市教育委員会蔵）

41 鴻巣の木遣り・纏振り・梯子乗り
＜市指定　無形民俗文化財＞
纏振り・梯子乗りなどいわゆる鳶職の仕事は、一般に江戸時代に江戸町奉行大岡越前守忠相が町火消しの組織を作ったのが始めとされる。一方、木遣り歌はもともと労働歌として古くから唄われていたとされている。起源は明確でないが、木遣り歌の歴史は他の芸能より古く、地域によってそれぞれ特徴があるとされる。
（鴻巣鳶職組合）

42 仁治三年双式板碑
＜市指定　考古資料＞
板碑は鎌倉から室町時代に盛んに造立された板状石製の供養塔で卒塔婆の一種である。金乗寺の板碑は仁治３年（１２４２）の造立で、２基一対の図像板碑である。旧小谷城内にあったと考えられている。
（小谷　金乗寺）

43 前砂の板碑群
＜市指定　考古資料＞
昭和８年頃、元荒川改修の際に、前砂地内河畔より多数出土したもののうち５６基を龍昌寺に収納したのが同寺板碑群の始まりであり、その後昭和５４年同地区内塚ノ越から新たに出土した１６基もここに収めた。前砂の龍昌寺のものは比較的小型のものが多いが、その紀年、形態、数量等郷土の歴史資料として貴重なものである。
（前砂　龍昌寺）

44 建長五年板碑
＜市指定　考古資料＞
板碑は鎌倉時代から室町時代にかけて造立された板状石製の供養塔で、石材が秩父青石であることから青石塔婆、板石塔婆などと呼ばれる。鶴間家の板碑が注目されるのは単に造立年が建長５年（１２５３）と古いばかりでなく、表に刻まれた文字（偈文）が当時の仏教信仰を知る上できわめて好資料とされるからである。
（鶴間家）

45 宝治二年板碑
＜市指定　考古資料＞
板碑は鎌倉から室町時代に盛んに造立された板状石製の供養塔で卒塔婆の一種である。宝蔵院の板碑は中央に胎蔵界大日如来の種子を力強く彫り、下部に紀年宝治２年（１２４８）を刻む。雄揮な古式作風は見事なものである。
（鎌塚　宝蔵院蔵）

46 愛宕山古墳
＜市指定　史跡＞
本古墳は墳丘上に愛宕神社が存在し、大きく改変されている。現状で直径２０～３０ｍ、高さ３ｍ程で、円墳と推定されているが確証はない。埴輪などの出土……

50 伝加納姫木造
＜市指定　彫刻＞
徳川家の葵定紋を附した厨子の中、敷台の上に御守殿風藤松模様の内掛姿でにこやかに立つ女性は徳川家康の長女亀姫である。亀姫は、１６歳の天正３年（１５７５）に織田信長の仲立ちで青年城主奥平信昌に嫁した。夫信昌の立身により美濃加納城（１０万石）に入り、加納姫または加納御前と呼ばれた。子孫は後年忍城主なってこの地方の民政に尽したが、伝加納姫木像がどのような経緯で宝蔵院の所蔵となったのかは不明である。
（鎌塚　宝蔵院蔵）

51 薬師三尊像
＜市指定　彫刻＞
当所の薬師如来像は行基菩薩作とされるが、近年の調査よれば江戸時代の作品と想定される。木造、寄木造、漆箔、玉眼、通肩、完好、像高２３ｃｍ（全体高６４．２ｃｍ）である。この尊像は忍城主成田下総守氏長の家臣であった石川隼人の守護仏であったが、成田氏滅亡後は宝積院に納められたものである。なお、脇侍に日光・月光菩薩がある。
（鎌塚　宝積院蔵）

52 伊奈忠次黒印状
＜市指定　古文書＞
当寺は天正２年（１５７４）僧玄越によって創建された。玄越は寺の経営に当たるとともに率先して周辺村々の新田開発に当たり、その功大であるとして時の関東郡代伊奈備前守忠次より慶長１３年（１６０８）に「寺領７石及び境内除地２，６７０坪を賜る」のお墨付きをもって寺運興隆の基をつくった。なお、文書の宛先が永勝寺でないのは、玄越が当寺寺域内に別の一宇「善勝寺」を建てて隠居し住していたためである。
（北新宿　永勝寺蔵）

53 大芦氷川神社の算額
＜市指定　絵画＞
中国の影響を受け、日本で独自の発達をとげた和算は、江戸時代に大いに発展した。関孝和によって研究が深められた関流の和算の流派に当所小林要吉郎が属していた。この算額は小林要吉郎勝栄一門が嘉永３年（１８５０）４月大芦氷川神社に奉納したもので、一門は大芦をはじめ各村にわたる４６人で、算法上達祈願を込めたものである。
（大芦　氷川神社蔵）

54 入定塚
＜市指定　史跡＞
北新宿の永勝寺境内の北隅に、相海上人の入定塚とする小堂があり、中には供養の五輪塔が１基建てられている。相海上人の入定は、同寺の過去帳によれば寛文２年（１６６２）２月２１日とされる。その由来は諸処放浪の末、新宿村へ辿り着いた頃に喘息に悩み、そのため上人は世の中の人々をこの病から救おうと仏にすがるべく自ら入定したとされる。以来、土地の人は咳の神様として願をかけ、治ると酒を供えてお礼をするならわしとなっている。
（北新宿　永勝寺）

55 千体仏
＜市指定　考古資料＞
昭和３２年５月１０日下忍の通称下屋敷と呼ばれる畑地を土地所有者の小林清一氏が田に転換するために約６０ｃｍ掘り下げたところ土製の甕（常滑産甕）が出土し、その中に仏像が約３０体入っていたことが千体仏発見の端緒となった。また、翌日、北側隣接地で約３００体の仏像を発見した（『千体仏像発掘調査報告書』）。この千体仏の年代は常滑産甕の特徴から南北朝時代と考えられている。
（鴻巣市教育委員会蔵）

56 大芦ささら獅子舞
＜市指定　無形民俗文化財＞
太鼓、笛、ささらなどの伴奏で舞い踊る獅子舞は多くその伝承を明らかにせず、大芦の場合も３００年程前、東吉見辺りより伝来したとされる。村内の斎藤家を家元としつつ村の寺社の祭りと共に発展し、村人の無病息災と五穀豊穣、さらに国家安泰を祈りながら今日まで受け継がれてきたとされる。
（大芦ささら獅子舞保存会）

57 小谷ささら獅子舞
＜市指定　無形民俗文化財＞
主として五穀豊穣の祈願、悪疫退散の神事として各地で行われる獅子舞は、平安時代には宮廷や寺社で行われ、室町時代になって民間に広まった。それ以後は時代ごとの庶民の願望や土地ごとの気風などを反映させながら発展を遂げていった。竹を細く割って作った「ささら」をすり合わせて踊る小谷のささら獅子舞は、３５０年程前から伝えられてきたとされている。
（小谷文化財保存会）

58 観音寺の庚申塔群
＜市指定　民俗資料＞
中国の民間で発達した道教を源とする庚申信仰は、人間各自の体内に住むという三尸（さんし）の虫が６０日ごとに庚申（かのえさる）の日の夜中体より抜け……

62 権八地蔵とその物語
＜市指定　民俗資料＞
権八は鳥取藩主池田家の家臣で、わけあって脱藩し江戸へ逃れた。ある時久下の長土手で絹商人を殺害し大金を奪い取り、辺りを見回すと地蔵様の祠があった。良心が咎め、いくばくかの賽銭をあげて「今、私が犯した悪行を見逃してください」というと地蔵が「わしは言わぬが我言うな」と口をきいたという。この話から、この地蔵は「物言い地蔵」と呼ばれた。権八はその後捕えられて延宝８年（１６８０）に品川で処刑された。
（荊原町内会）

63 玉芝短冊と俳諧図書
＜市指定　歴史資料＞
横田玉芝（ぎょくし）は、江戸時代末期の天保、弘化、嘉永にわたって当地方俳壇で名を挙げた俳人である。当時盛んに発刊された俳諧誌に武州榎戸玉芝とか榎戸玉芝とかいう紹介のしかたでその発句が記されているところから彼が榎戸の人であることが分かる。榎戸横田家の第７代当主氏宣（うじのぶ）といわれている。
（鴻巣市教育委員会蔵）

64 石田堤
＜市指定　史跡＞
この堤は、歴史上有名な石田三成が豊臣秀吉の小田原北条攻めの際、北条方の忍城（成田氏）を水攻めするために築いたものである。時は天正１８年（１５９０）６月７日から１４日の７日間（一説には５日間）で完成したといわれる。熊谷市久下から行田市白川戸にかけて総延長１４ｋｍに及ぶが、鴻巣袋地域の石田堤は比較的保存状態が良く、３００ｍ程残っている。また、現在は整備されて史跡公園となっている。
（袋）

65 高崎線開業当初のレール
＜市指定　歴史資料＞
明治１６年（１８８３）上野駅から熊谷駅まで高崎線が開通し、明治１８年（１８８５）には吹上駅が開設された。これら高崎線開業当初のレールは、ＢＡＲＲＯＷ　ＳＴＥＥＬ（１８８２年イギリス）など外国製で、昭和５９年（１９８４）２月まで吹上駅構内で引込み線として使用されていたものである。
（鴻巣市教育委員会蔵）

66 広田のささら
＜市指定　無形民俗文化財＞
広田のささらは、別名「龍頭舞」といって頭に龍頭をかぶって舞う獅子舞である。毎年１０月１５日鷺栖神社に五穀豊穣と悪魔除けを祈願して奉納されている。龍頭舞に先立ち子供たちによる「花棒」と呼ばれる棒使いが奉納されるのが特徴である。歴史は古く、同神社に残る古文書によれば、寛永１６年（１６３９）に始まったと伝えられている。
（広田鷺栖神社龍頭舞保存会）

67 雲祥寺の梵音具（梵鐘・雲版）
＜市指定　工芸品＞
梵鐘は、正徳６年（１７１６）の銘があり、妙法蓮華経全文９万９千９百余字が、近づいて見なければ分らない程の小さな文字で鐘全体に彫ってあるのに驚かされる。高さ１８４ｃｍ、口径９４ｃｍ。
雲版は、寺で食事などを知らせるために打ち鳴らした雲形の板で、青銅製である。作成年は明徳５年（１３９４）で、３５文字の銘がある。縦４９．２ｃｍ。
（上会下　雲祥寺）

68 新井家の大榎
＜市指定　天然記念物＞
樹齢推定５００年といわれ、天正１９年（１５９１）新井家の先祖新井弥左衛門が荒れ果てた広田村の開発者として入植する以前から広田村を見続けてきた。かつての威容を偲ばせるその姿は、広田村開発の記念碑的存在である。
（新井家）

69 真福寺の不動明王
＜市指定　彫刻＞
江戸時代の木造坐像で、不動明王の半跏趺坐像は全国でも非常に珍しいものである。右手に降魔の利剣を持ち、玉眼（水晶）の怖い顔つきに似合わず、体つきは女性的であるのが特徴である。像高７６ｃｍ、横幅４６ｃｍ。
（屈巣　真福寺）

70 忍領界石標
＜市指定　歴史資料＞
かつては安養寺と屈巣の境に建っていたもので、忍藩が他領分との境界争いを防ぐため安永９年（１７８０）に領内１６ヵ所に建てたものの一つである。小松……

74 舟塚の古銭と甕
＜市指定　考古資料＞
屈巣舟塚の農地から昭和４０年（１９６５）に出土した。ほとんどが中国からの渡来銭で、総数は約３万枚である。甕の形態から１５世紀から１６世紀頃に埋設されたと考えられる。また、古銭の入った甕は常滑産の製品であり、貴重な資料である。
古銭　渡来銭５７種２９，６２３枚　常滑産甕　器高５４．４ｃｍ、口径３６．６ｃｍ。
（鴻巣市教育委員会蔵）

75 騎西城主小田氏の墓
＜市指定　史跡＞
雲祥寺の開基である騎西根古谷城主小田顕家とその息女の供養塔である。小田顕家は常陸国の守護小田氏の一族といわれ、戦国時代に上杉憲政に属し活躍した。向かって右の顕家の墓は中世の特徴を残した天文８年（１５３９）の宝篋印塔である。高さ１１２ｃｍ。
隣の息女の墓は、慶長１３年（１６０８）銘がある。高さ８３ｃｍ。
（上会下　雲祥寺）

76 円通寺の石塔（板碑と宝篋印塔）
＜市指定　考古資料＞
正嘉２年（１２５８）銘の板碑は、川里地域最古のものである。高さ１１０ｃｍで、阿弥陀一尊種子を表している。『観無量寿経』から抜き出した偈文が彫られている。
宝篋印塔は『新編武蔵風土記稿』に開山の僧の墓と伝えられ、塔に貞治年（１３６２～１３６７）銘が刻まれている。完全な形ではないが大型でどっしりした威容を誇っている。高さ１０６ｃｍ。
（屈巣　円通寺）

77 円通寺の三十三観音
＜市指定　彫刻＞
西国三十三ヵ所の札所巡りを記念して天保６年（１８３５）に建立したものである。三十三の変化をして現れるといわれる観世音菩薩の像をすべて浮彫りにしてある。全国的にも珍しく、美術工芸的にも素晴らしい。天保６年銘の三十三観音石塔は高さ１２８ｃｍの石塔が２基、高さ１３６ｃｍの石塔が１基で、１基に１１体の観音像が彫られている。
（屈巣　円通寺）

78 円通寺の観音堂
＜市指定　建造物＞
観音堂は総檜三間四面堂で、正面に向拝が付されている。屋根は一重入母屋造・軒唐破風付の銅板葺となるが、これは後世の改変によるもので、当初は茅葺屋根であったと考えられる。組物は禅宗様二手先で、尾垂木上の秤肘木先端は渦巻付の拳鼻となる。外観の様相は至って格調高いものであり、馬頭観音の庶民信仰を一層高めていると思われる。江戸時代初期建立の可能性が考えられている。
（屈巣　円通寺観音堂）

79 円通寺観音堂の木造馬頭観世音菩薩坐像
＜市指定　彫刻＞
木造、玉眼、漆箔、眉墨描で本面の上に馬頭印を載せ、髪は怒りのために逆立つ怒髪の形を表している。製作は江戸時代中期とされる。顔は本面の左右にそれぞれ一つの脇面が付く三面である。本面の目は三つ、脇面はそれぞれ二つである。腕は八本で、本手の二本で印を結び、左右の脇手はそれぞれにものを持つ。足は右膝を立てて、左足裏に重ねる輪王坐という形をして蓮華座に坐っている。坐高５８．３ｃｍ。
（屈巣　円通寺観音堂蔵）

80 円通寺観音堂の木造神馬
＜市指定　工芸品＞
木造、玉眼、彩色で布・和紙を張り、丸みを出すために大鋸屑で下地を固めている。製作は江戸時代後期である。
左　像高：１１９ｃｍ　尻高：７６ｃｍ
たてがみは失われている。
中　像高：１０１ｃｍ　尻高：７２ｃｍ
耳、たてがみは失われている。
右　像高：　７６ｃｍ　尻高：５１ｃｍ
耳、玉眼、たてがみは失われている。
（屈巣　円通寺観音堂蔵）

81 新井稲荷神社の算額
＜市指定　絵馬＞
江戸時代に発達した日本独特の数学を和算という。埼玉郡種足村（旧騎西町）の関流の都築利治（１８３４～１９０８）を師とした田村金太郎（旧共和村新井）が難しい問題を解いた成果として奉納したものである。明治２５年（１８９２）９月１日奉納。
（新井　稲荷神社蔵）

82 西福寺の狛犬
＜市指定　彫刻＞
西福寺の狛犬は、彫刻（阿像）の一部が欠損しているのは惜しまれるが、代々大切に保管されてきたため、全体の保存状態は良好である。市内では唯一の神殿……

ーご利用いただく皆様にー
文化財は郷土の歴史・文化を正しく理解するうえで、欠くことのできない貴重な私達の財産です。「鴻巣市文化財マップ」は郷土の文化財を紹介し、ふるさと鴻巣を広く周知するために作成したものです。多くの方々にご利用いただければ幸いです。

鴻巣市文化財マップ
平成２７年９月２５日
編集・発行　鴻巣市教育委員会
監　　修　鴻巣市文化財保護委員会
〒365-0039
鴻巣市東3丁目8番17号
TEL 048-544-1215

8415515.indd 2
15/09/07 14:21